



琉球フィルハーモニックオーケストラによる

ちゅ

美らサウンズ コンサート

GUIDEBOOK

Concert!



※本書内の表記を「障害者」としています。
※「ゆいまーる」とは、沖縄の方言で、相互扶助という意味です。

このガイドブックについて

本書は、琉球フィルハーモニックオーケストラによる「美らサウンズコンサート」（令和元年度障害者による文化芸術活動推進事業（文化芸術による共生社会の推進を含む））の開催実施と、その開催ポイントを掲載したガイドブックです。

どのような関係者で実施体制を組むのか、どのように開催会場を意識すればいいのか、そしてまた実施後のアンケートを掲載し、実施における様々な要点をまとめました。

本ガイドブックによって、多くのみなさんが障害のある方々に向けたオーケストラコンサートの開催の参考にご活用いただければ幸いです。



「ゆいまーるミュージックプロジェクト」の趣旨・目的

繊細で迫力のあるオーケストラの奏でる音楽を聴いて、感動したり豊かな気持ちになるのは、健常者だけの特権ではありません。

障害のある方の中には、感動や喜びを大きな声を出したり飛び跳ねたりすることなどで表現する方もおり、オーケストラのコンサートを生で鑑賞する機会が極端に少なく、その介護を担っている家族もまた一緒にコンサートへ出かけるのをためらいがちになります。

「ゆいまーるミュージックプロジェクト」は、障害者やそのご家族が気兼ねなく安心してコンサートを楽しめる環境づくりのために「ゆいまーるミュージックプロジェクト」チームを結成し、そのノウハウを全国に広げながらコンサートの開催を促進していくことを目的としています。



開催実施概要

琉球フィルハーモニックオーケストラによる「美らサウンズコンサート」

2019年12月8日(日)
午後2時開演(午後1時開場/午後4時終演)

会場：与那原町観光交流施設アリーナ(与那原町与那原 3179)
対象：全て(身体、精神)の障害、難病のある方、ご家族、介護の方等
入場料：無料

※一般の方もご入場可能ですが、障害者やその関係者を優先に予約を受付
予約方法：電話、ファックス、e-mail(人数、障害種、車椅子、ストレッチャーの利用、補助犬同行、特記事項などを記入)

出演者

【司会】 富銘直美
【指揮】 金井敏文
【ゲスト】 コンスタントグロウ
Paraphrase
砂川恵理歌

プログラム

【ウェルカム演奏】
那覇ジュニアオーケストラ弦楽アンサンブル

【オーケストラ演奏】

「ザ ファイナル タイムトラベラー」/坂本 英城
「鍛冶屋のポルカ」/ヨーゼフ・シュトラウス
「トランペット吹きの日」/ルロイ・アンダーソン
カルメン第一組曲より/ビゼー
「前奏曲」「アラゴネイズ」「間奏曲」「トリアドール」
映画「インディージョーンズ」よりレイダースマーチ/ジョン・ウィリアムズ

【音楽療法パフォーマンス】

高良 幸人(音楽療法士)& 赤羽 一則(打楽器奏者)

【ゲスト共演コーナー】

砂川 恵理歌
「一粒の種」/作詞：中島 正人、高橋 尚子、下地 勇 作曲：下地 勇
「いかないで」/作詞：松井五郎 玉置浩二
パラフレーズ
「Destiny」/作詞・作曲：日和
「Hang in there」/作詞・作曲：日和
コンスタントグロウ
「さくらはまだか」/作詞・作曲：謝花 勇武
「旅の途中」/作詞・作曲：謝花 勇武
コンスタントグロウ & パラフレーズ
「その先へ」(新曲・初演)/作詞・作曲：謝花 勇武

【オーケストラ演奏】

「栄光の架橋」/ゆず

【指揮に挑戦】

カルメン組曲より「トリアドール」
「クリスマスフェスティバル」/ルロイ・アンダーソン

【アンコール】

歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」より間奏曲/マスカーニ



主催：文化庁 共催：与那原町 与那原町教育委員会 制作：一般社団法人琉球フィルハーモニック
後援：沖縄県、与那原町社会福祉協議会、琉球新報社、沖縄タイムス社、NHK 沖縄放送局、琉球放送、琉球朝日放送、沖縄テレビ、ラジオ沖縄、エフエム沖縄

コンサートの開催実施のポイント

POINT 1 プロジェクトチームの立ち上げ

音楽や福祉など、各専門家の知見やネットワークを持ち寄れるチーム構成にします。

POINT 2 事前ミーティングの設定

多くの方々が集まる場ですので、全員が集まれる日程を事前に設定しスケジュールを調整します。

POINT 3 対象とする障害種の選定

障害の種類には様々あり、演目や会場設営にもそれに対応した工夫が必要になりますので、初期段階から選定しておきます。

POINT 4 選定障害種の特性の理解を深める

プロジェクトチームの会議では、ポイント3で選定した障害種の特性の理解を深めていきます。

POINT 5 地域などの協力体制の構築

会場周辺や、消防署、医療関係、教育関係と様々な地域との連携が必要となります。コンサート開催の趣旨を啓発していきます。



「ゆいまーるミュージックプロジェクト」チームの構成



仲根 健作
NPO法人沖縄県脊髄障害者協会理事長



照屋 尚子
沖縄県教育委員



宮城 潤
那覇市若狭公民館 館長



謝花 勇武
コンスタントグロウ リーダー



知念 淳二
与那原町役場 社会福祉士



高良 幸人
音楽療法士



施設
管理者



樋口 貞幸
コーディネーター



上原 正弘
一般社団法人琉球フィルハーモニック 代表理事



島村 聡
沖縄大学人文学部 福祉文化学科教授



落合 千華
ケイスリー株式会社 取締役

コンサートを開催

するまでの流れ



コンサート1年前から8ヶ月前

プロジェクトチームの立ち上げ。
対象障害種の選定、開催会場の決定。
出演者、ゲスト、司会者へのオファー。

POINT1
対象とする障害種にあわせた会場を選定。
「ゆいまーミュージックプロジェクト」では…
すべての障害難病を対象にすることを決定し、具体的な取り組みの話し合いを行いました。
また、地域の協力により会場決定がなされました。

コンサート半年前

出演者、ゲスト、司会者の決定、開催プログラムの決定、ボランティア団体などの協力依頼(人数や役割) 医療関係者(介護士、看護師)などの協力依頼、チラシの作成、配布、予約も開始する。

POINT2
プロジェクトチームでの情報交換・共有のためにSNSグループなどのツールの活用。
福祉施設などのスケジューリングのため、チラシ・ポスターは早めに作成。
「ゆいまーミュージックプロジェクト」では…
Facebook メッセージャーでグループスレッドを活用し、チームの情報共有や意見交換を行いました。

コンサート3ヶ月前

実際の会場で、実施シミュレーション。機材の搬入搬出や、入場者の出入り口、トイレなどバリアフリーの状況を確認します。その際に必要な備品や、要員なども細かに決定していきます。広報誌などを活用した広報開始もこの時期です。

POINT3
コンサートの目的をしっかりと伝え、会場との協力体制を整える。
「ゆいまーミュージックプロジェクト」では…
開催会場での駐車場の確保や、搬入搬出、スタッフの動線も確認しました。また、車椅子のまま入場できるよう、施設側の協力を得ることができました。

コンサート2ヶ月前

予約状況の確認と、来場者の障害種の把握、ボランティアスタッフ、会場スタッフの確定、チラシ配布先の在庫確認(告知が足りなければ、配布先を増やす)をします。メディア向けの広報はこの時期です。

POINT4
事前予約の際に、障害種の把握ができるようにする。
「ゆいまーミュージックプロジェクト」では…
予約状況から、発達障害の来場者が多いことがわかり、気分が落ち着くスペースを確保するため、会場内にパテーションの設置を検討しました。

コンサート1ヶ月前

ボランティアリーダーとの打ち合わせを行う。車椅子やストレッチャー、ベビーカーなどの数や、予約状況をもとに、当日に向けた動線の確認をします。

POINT5
当日に予測できる状況を想定し、情報を共有する。
アンケートの項目を、関係者や現場の声を基に検討する。
「ゆいまーミュージックプロジェクト」では…
撮影不可の来場者へのアナウンス方法など、報道や撮影の対応方法について話し合いがなされました。また、不測の事態に備えるための情報共有を密にしました。

コンサート前日

ゾーニングをもとに、会場設営を行う。施設にない設備をレンタルしている場合は、その対応を行う。演奏リハーサルを会場で行い、音響状況や舞台設営などを確認します。

POINT6
オーケストラ演奏者への障害などの特性についてのレクチャーを行う。
ボランティアリーダーによる来場者対応の最終確認。
「ゆいまーミュージックプロジェクト」では…
オーケストラ演奏者へ、事前に障害などの特性による反応の違いについてレクチャーを行い、観客の反応に対する理解を深めていただきました。

コンサート当日!

コンサート実施。多くの方が来場されます。会場内のボランティアリーダーは、状況を判断しながら臨機応変に対応できるようにします。

POINT7
受付で予約を確認し、障害の種別に応じた対応につなげる。
「ゆいまーミュージックプロジェクト」では…
会場の雰囲気づくりのために、那覇ジュニアオーケストラのウェルカム演奏や音楽療法士によるパフォーマンスを行いました。お客様の動線上に、受付、撮影NGリボン配布、ゾーニング別の誘導の順にボランティアを配置しました。

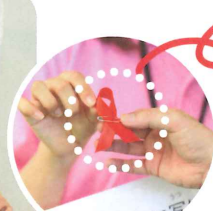
コンサート後(1ヶ月以内)

コンサートの振り返りを行います。広報、会場、演奏者、プログラムの内容、ボランティア、報道など様々な視点で振り返ります。

POINT8
次の開催に活かすために、アンケート回答の分析や振り返りを行う。
「ゆいまーミュージックプロジェクト」では…
アンケートは、来場者のみならず、出演者やスタッフにも回答をお願いしました。プロジェクトチームからは、専門的な見知での意見が寄せられました。

今回のコンサート会場MAP

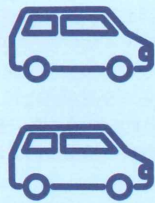
POINT
撮影NGリボン配布。



撮影NGリボン

POINT
シャワールームをおむつ交換場所にセッティング。

POINT
出入り口
昇降サポートのスタッフを5人配置。



車イスサポート
介助スタッフ

POINT
受付にて今回の注意事項を呼びかける。
テレビ等の取材が入っていることを説明。

POINT
受付に吸水・防塵マットを設置して車イスのタイヤを拭かずに入場を可能にした。



吸水・防塵マット

POINT
聴覚障害者のために、手話通訳やUDトークを活用。

POINT
周りの目を気にせず、気分を落ち着かせて鑑賞できるスペース。



POINT
コンサートホールの音に近づけるため、音響を入れ、サポート。

POINT
呼吸器などのための電源の確保。

POINT
フロア保護シートにより土足での入場、補助犬入館を可能にした。

POINT
聴覚障害者が鑑賞できるように、専用スピーカーを設置。

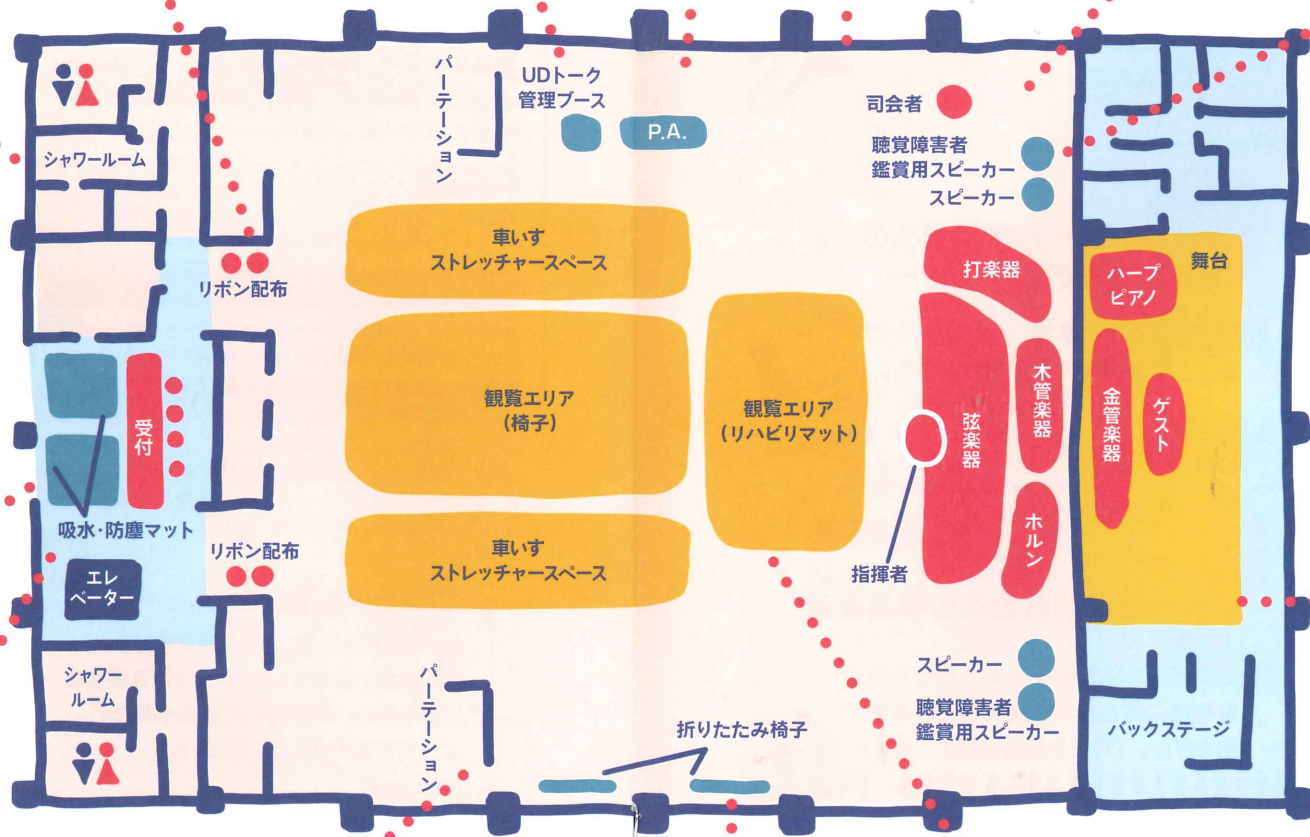


POINT
オーケストラを見やすくするために舞台とフロアを使用して配置。



POINT
臨機応変に対応するための予備の椅子を用意。

POINT
リハビリマットでリラックスした体勢で鑑賞できるフリースペース。



コンサートを行う際のその他のポイント

障害の種別において様々な対応が必要となります。
このプロジェクトでは以下の点に注意しました。



1 コン서트中のトイレ休憩は入れない

来場者の集中力を維持するためや、トイレの混雑を防ぐために、休憩を設けず、コンサート中の出入りを自由にする。



3 音楽の曲順に工夫

音楽療法士と相談し、障害種の違いによる反応を考慮したうえで、興奮状態のまま帰路につかせないように曲順を工夫する。



5 取材等での顔出しNGの方にはリボン等の目印を付ける

プライバシーへの配慮から、事前にアナウンスを行い、報道関係者にもしっかりと伝える。



7 手話通訳者とUDトークの手配

UD トーク情報支援者や、手話通訳を手配し、当日配布のプログラムも点字対応を行う。
(より多くの障害種への対応を意識する。)



2 リラックスして音楽を楽しむための工夫

初めてオーケストラコンサートを鑑賞する方も多いため、音楽療法士のパフォーマンスで身体を動かしリラックスを図るなど、お客様参加型のプログラムを入れる。



4 コン서트出演者への障害種のレクチャー

障害種を正しく学び、その反応を知ることによって演奏者の不安を和らげる。



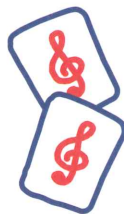
6 地域の消防署への事前連絡

コンサートの概要を伝え、当日の救急車要請に備える。看護師などの事前手配を行う。(万一の場合に備えておく)



8 ポスターやチラシ、告知案内などの工夫

チラシやポスターには、障害種の対象、会場のゾーニングを明記し、また、色覚障害者が見やすくする工夫もして、より多くの人に告知できるようにする。



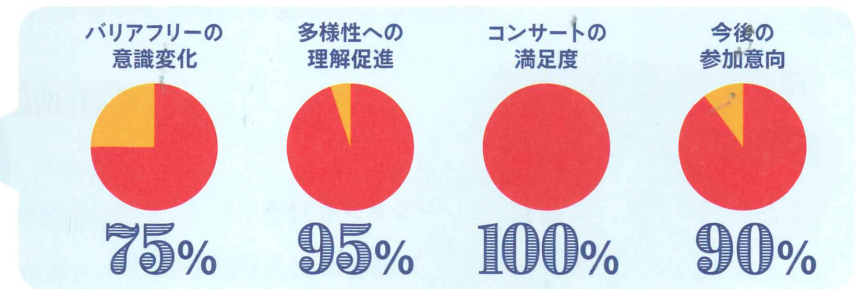
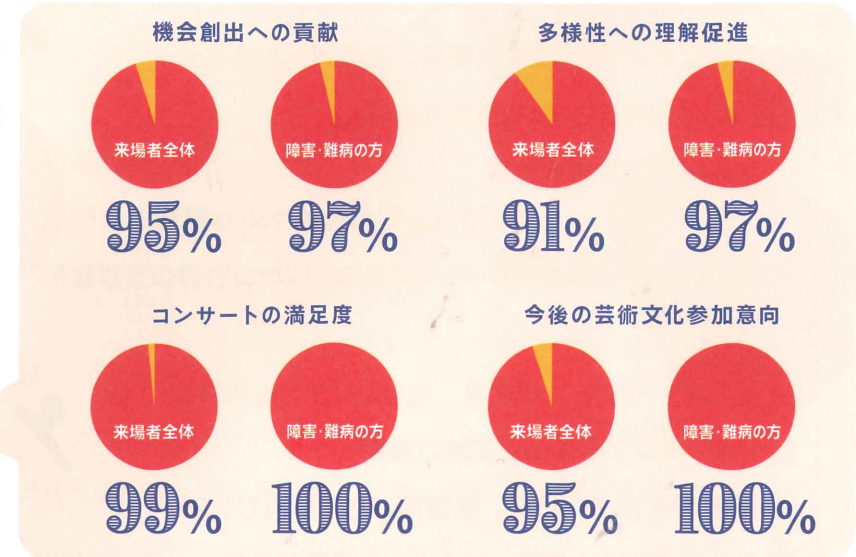
ゆいまーるミュージックプロジェクト 「美らサウンズコンサート」の検証

より良い事業実施に活用し、広域に広げていくことを目的に調査を実施。

- 目的1 皆さんの声を知る
- 目的2 より良い事業設計に活かす
- 目的3 より多くの人へ届ける

アンケートおよびヒアリングの結果

肯定的回答
(そう思う、少しそう思う)



主な声

- 観客** 感動しかない。オーケストラを聴くのも初めてで、とても良かった。今後も続けてほしい。
- ボランティア** 出演者も来場者も、健常障害問わず皆が参加できるコンセプトが素晴らしい。
- 演奏者** 出演者に複数の障害者がいるというのは初めて、一緒に舞台を作ることにより多くの学びがあった。
- 観客** 入退場が自由であることなどマナーにこだわらない試みは素晴らしいと思う。

今後の展望

分野を超えて協働する姿勢と、地域住民を含めた関わり合いを大切にすることによって、成功に繋がった。今後も、成功要因をもとにした活動と展開で、より良いチーム形成を構築し、共生社会への実現を目指したい。

美らサウンズコンサートの報告書はこのサイトへ。



コンサート開催までのチェックポイント

1年前から8ヶ月前

POINT1

- 趣旨に賛同してくれる関係者を集めたプロジェクトチームの立ち上げ
- 趣旨に賛同してくれる演奏者、司会者へのオファー
- 趣旨に賛同してくれる会場を決定
- 来場者の障害種の選定

コンサート半年前

POINT2

- 出演者、ゲスト、司会者、開催プログラムの決定
- ボランティア団体などに協力依頼
- 医療関係者（介護士、看護師）などの協力依頼
- チラシの作成、配布、コンサートの告知を行い、予約を開始

コンサート3ヶ月前

POINT3

- 会場の下見、実施シミュレーションを行う
- 会場の機材の搬入搬出や、入場者の出入り口を確認
- 会場トイレなどバリアフリーの状況を確認して対応策を講じる

コンサート2ヶ月前

POINT4

- 予約状況の確認をする
- 来場者の障害種の把握（特記事項などの確認もする）
- ボランティアスタッフ、会場スタッフの確定
- 告知状況の確認（チラシ配布先の在庫確認も行う）



Check point

1ヶ月前

POINT5

- ボランティアリーダーとの打ち合わせを行う
- アンケートを取る場合は、質問事項の内容を決定
- 予約状況をもとに動線を確認

コンサート前日

POINT6

- ゾーニングをもとに、会場設営を行う
- 演奏リハーサルを会場で行い、音響状況や舞台設営などを確認
- オーケストラ演奏者へ障害などの特性についてのレクチャーを行う

コンサート当日

POINT7

- 会場内のボランティアリーダーは、状況を判断しながらボランティアと協力して臨機応変に対応する
- 受付で予約を確認し、障害の種別に応じた対応につなげる

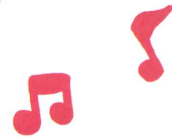
コンサート後（1ヶ月以内）

POINT8

- コンサートの振り返りを行う
- アンケート回答の分析を行う

Memo





ゆい
美らサウンズコンサート
フォトスナップ



発行・制作/一般社団法人 琉球フィルハーモニック 編集/株式会社うさぎでざいん



令和元年度障害者による文化芸術活動推進事業
(文化芸術による共生社会の推進を含む)「ゆいまーるミュージックプロジェクト」

2020年3月20日発行 無断転載禁止